

## 冬季における感染症，インフルエンザウイルスについて

戸田昌一

山口臨技，30(2)，33～37(2006)

インフルエンザは，冬季における代表的なウイルス性呼吸器疾患である。その身近さゆえに，重大な感染症であるとの認識が希薄であるが，毎年のように流行を引き起こし，大規模な流行が発生した年には，日本でも1万人以上もの人がインフルエンザ及びそれに伴う肺炎等の二次疾患で命を落としていると推定されている。また，インフルエンザは老若男女のすべての人に感染することから，個人の健康被害のみならず，学校閉鎖や職場での欠席者の増加など社会活動全体に影響を及ぼしている。

このいまだ人類にとって最大級の感染症であるインフ

ルエンザから，人間が身を守る手段は，基本的には流行期前のワクチン接種であるが，このワクチンを製造するためには，変異を繰り返して毎年の流行を引き起こすインフルエンザウイルスを分離同定し，その抗原性及び遺伝子変異の状況を調査することが不可欠である。

今回，インフルエンザのウイルス学的な特徴を紹介するとともに，主としてインフルエンザ対策として我々地方衛生研究所が実施している検査及び調査について説明する。